

## 会議録

会議の名称	平成21年度 西東京市青少年問題協議会 第4回
開催日時	平成22年1月22日（金曜日） 午前10時00分から午前11時50分まで
開催場所	田無庁舎庁議室
出席者	委員；石田委員、栗原委員、嶋田委員、住田委員、田口委員、中野委員、納田委員、細田委員、松井委員、真鍋委員、森委員、森本委員（五十音順） ※欠席；金原委員、福間委員、本間委員 事務局；子育て支援部長 大川、子育て支援課長 森下、児童青少年課長 齋藤、子育て支援部主幹 萩原、調整係主査 倉本、調整係主事 松下
議題	1 「青少年の日」について 2 その他
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・防犯協会だより</li> <li>・「第28回東京都青少年問題協議会答申について」</li> <li>・「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」（抜粋）</li> <li>・平成21年度西東京市青少年問題協議会（第3回）会議録</li> </ul>
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会議内容	
<p>○事務局： 定刻となったので協議会を始める。まずは前回欠席された中野委員に委嘱を行う。</p> <p>委嘱</p> <p>○事務局： 続いて座長よりご挨拶をいただきたい。</p> <p>○座長： 座長挨拶</p> <p>○事務局： 欠席者報告 資料説明及び報告</p> <p>○座長： それでは議題に入る前に、前回の会議録の承認をしたい。</p>	

○委員一同：  
異議なし。

○座長：  
それでは承認させていただく。  
続いて先日参加した「第28期東京都青少年問題協議会」について報告させていただく。メディアが青少年に与える影響は大きく、プラスの面もマイナスの面もあり、加害者にも被害者にもなり得る。第28期東京都青少年問題協議会において「メディア社会が広がる中での青少年の健全育成について」の答申をした。ぜひ資料に目を通していただきたい。また、パブリックコメントでは児童ポルノ等に関する意見が非常に多かった。児童ポルノの単純所持を禁止していないのは日本とロシアくらいであり、それらの規制のことも踏まえた答申である。  
それでは議題に入る。まずは青少年問題協議会専門部会にて協議されたことをご報告いただきたい。

○A委員：  
先日行われた青少年問題協議会専門部会では「青少年の日」について協議した。現在パブリックコメントが行われている「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」後期計画の中に青少年問題協議会で7月に提言した「青少年の育ちを見守り、支援する」ことに関しての記載がある、事務局に説明をお願いしたい。

○事務局：  
西東京市では今年度1年をかけて「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」の見直しをしている。今回素案ができたのでパブリックコメントを開始している。7月に提言していただいたことを「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」に反映させるため子ども福祉審議会と調整をしてきた。見直しでは子育て支援計画と次世代育成支援行動計画の内容がほぼ同じであることから、これを期に計画を統一し、一体のものとして取り扱っている。また、重点的な取り組みとして「青少年が育つまち」の実現について記述した。さらに、青少年の日の設定、青少年のしゃべる場の設定、見守り支援の強化についても具体的に記述した。  
来年度は西東京市10周年記念の年でもあり、記念事業として青少年の日に関するイベントも考えたい。今後ともご協力願いたい。  
また、子どもによる子どものための企画づくりと事業運営の推進に関してだが、子ども議会を行うべきという要望が多いので来年度以降具体的に検討したい。

○A委員：  
続いて専門部会に出席いただいた方々に発言をお願いしたい。

○B委員：  
中学生にヒアリングしたことを皮切りにいろいろなことをしていきたい。親も参加していただいて、日頃、聞きづらい子に、喋りづらい男女交際について話し合ってもらえるようなしゃべる場の設定をしたい。それもひとつの親支援につながるのではないかと

と思う。

○C委員：

青少年の日のイベントに親の相談を受けるようなことも導入したい。子どもたちの自由な発言の場としても成り立ってほしい。

○D委員：

青少年の日のイベントで性教育に関することができたらいいと思う。

○A委員：

「青少年の日」の設定について、合併の行われた1月21日前後一週間あたりがいいかと思うがいかがか。

また、しゃべる場の設定、子ども議会についても議論いただきたい。

○座長：

1月21日前後一週間がいいという意見があったがいかがか。

○E委員：

受験の時期に重なるのが気になる。

○A委員：

夏休みも検討したが、お祭り等が多いのでみなさんの意見を聞いて検討課題として残していきたい。

○C委員：

合併10周年をきっかけとして、ここから進めていくものであり、継続的に進んでいくように検討したい。

○座長：

次年度は1月21日前後一週間くらいとしていいか。

○F委員：

子どもが出席しやすい時期を考慮する必要がある。子どもが活発になる夏や春が好ましい。合併10周年と分けて考えて経年的なことを考えると夏場のほうがいい。

○A委員：

青少年の日を設けている自治体があるなら例を聞きたい。

○G委員：

設定している自治体は記憶にない。

青少年の日の設定として、提言がなされた月や、子どもが活発になる時期など青少年の日として設定した意味づけがほしい。合併記念日とは、同じものとして考えると根拠が弱い。

○H委員：

設定している自治体は記憶にない。

日程としては受験のことが気になる。中学3年生と高校3年生が関われないのは厳しい。春先でまだ生活に慣れない時期に行うのも面白いと思われる。

○I委員：

設定している自治体は記憶にない。

子どもに対して意識付けができる日を設定するべきだと思う。

○座長：

次年度については1月21日前後一週間でいいか。青少年の日の設定に関してはしっかりとした意味づけが出来る日を今後設定していくということでもいいか。A委員に意見を伺いたい。

○A委員：

みなさまのご意見はそのとおりだと感じた。しっかりした意味づけが出来る日を設定したい。また、青少年の日に予算をかけないでできればいいが、長期的な見通しとしてできるのか心配である、議員の方のご意見を伺いたい。

○F委員：

予算化するために明確なイベントがほしい。漠然としていては難しい。

○C委員：

青少年の日としてやるのか、週間としてやるのかによっても異なる。週間としてやればこの期間にいろいろなイベントが行え、予算を組みやすい。そして青少年問題協議会はあくまで提言の場であり、実際に行動に移していただく方が実行しやすい時期も考えなければならない。また、合併の日を青少年の日につなげるために、逆に「青少年の日」から「合併の日」をリンクさせるのもいい手法だと思う。

○座長：

「青少年の日」にするのか、「青少年週間」にするかいかがか。

○J委員：

学校側で子どもたちが意見をいいやすい時期はいつなのかと確認するべきである。また、実施していく大人・団体の都合も考える必要がある。個人的には「青少年週間」としたほうがやりやすいように思う。

○A委員：

専門部会でも「青少年の日」にするのか週間にするのか検討する。「青少年週間」にするのであれば、関連する各課、及び青少年育成会にヒアリングをしたいがいかがか。

○J委員：

青少年もヒアリングの対象にしていきたい。

○座長：

みなさまの意見からは「青少年週間」のほうがいいと思うがいかがか。

○H委員：

敬老の日のように第何週目の休日のような設定もいいと思う。また、「青少年週間」にすると具体的な日にちがぼやけてしまうのではないか、特定の日に絞り、そこに週間的なエッセンスを入れるのがいいと思う。

○座長：

この点に関しては専門部会で議論して、その上でヒアリングをしてもよろしいか。

○委員一同：

異議なし。

○A委員：

続いて「青少年の日」の設定にあたっての議論だが、親支援についてが大きな課題となる。家庭に問題があるような親は、イベントにもPTAの会合にも出てこないのどうやって支援していくべきか。

○座長：

具体的なご意見を伺いたい。

○F委員：

乳幼児の親は閉じこもってしまう、そのような方の意見を早い時期に引き出すことが重要だと思う。親に対するしゃべる場が必要である、検討していきたい。

○座長：

東京都には東京塾というものがある。乳幼児から中学生くらいの親を対象にしたグループワークがあり、西東京市でも毎年4回程度行われている。このようなものもいいと思われる。

○A委員：

最近は児童養護施設に低年齢で入る人が多い。親も病んでいることが多いが、そのことについてご意見を伺いたい。

○G委員：

支援が必要な親をどうやって巻き込んでいくかが課題である。こういう方はおそらくイベントには来ないであろう。こういう人に対する親支援は非常に難しい。児童養護施設では乳児院に入所し、18歳までいる人も多い。親としては一緒に暮らしたいが、親の精神状態、虐待等の問題もあるのでこのような親を対象にすると青少年イベントが重くなるのではないか。

○D委員：

我が子にしか目を向けていない親を他の家庭に目を向けさせて、そのことが自分のためになるということもある。そのように全体で支えていくのが好ましいと思う。勉強会をして悩んでいる親のサポートをしていくのも解決に向かうかと思う。

○座長：

昔は地域で行われていたことであり、地域で見守る力が大切だと思う。K委員ご意見はいかがか。

○K委員：

子どもの電話相談を受けているが、親自身の相談になることが多く、本当に子どものことを考えていただけることが大切だと思う。電話をしてこない親も多くいるので、小さなグループで声かけなどをして話ができる機会が必要かと思う。これは子どもの問題とは分けて考えていいのではないか。

○E委員：

イベントに出てくる親をしっかりと支えて、出てこない親のフォローをしてもらえるようなこと、講演だとかしゃべる場などができればいいと思う。

○A委員：

支援する方法だが、青少年問題協議会として提言していく上で、西東京市立小学校・中学校PTA及び教師と保護者の会で定期的にしゃべる場の実施をしていただくだとか、ご意見を伺いたい。

○C委員：

「青少年の日」にむけて何かをするのなら、例えばパネルディスカッションをする等あるが具体的にはどうか。

○F委員：

ネット犯罪や非行などのテーマで専門家から話を聞く機会があってもいいと思う。さらにそれを発信する場所、しゃべる場が必要である。

○A委員：

西東京市でも一時期そのようなことがあったが、大きな事件があると皆が関わっていくが、ないときはあまり関わらない。だからこそ「青少年の日」を通して意識付けをしなければならない。

○座長：

具体的な方法は何かあるはずである。ご意見を伺いたいが「青少年の日」の議題はこれにて終わりとしたい。その他何かあるか。

○A委員：

専門部会で子どもたちにヒアリングをしたいがよろしいか、去年青少年問題協議会のヒアリングで子どもたちと定期的に行うことを約束したが、実際にはできていないのでぜひともやりたい。

○委員一同：  
異議なし。

○K委員：  
専門部会のみでなく、声をかけていただけたら協力したい。

○C委員：  
葛飾区で子ども議会が行われているので視察をしてきた。青少年問題協議会としても、議員としてもお願いしたいのだが、子ども議会の実現に承認していただきたい。

○座長：  
子ども議会について具体的に説明を求める。

○C委員：  
葛飾では中学生が中心になり、小学生も交えて40名くらいの子どもの議会を行っている。内容は大人がしている議会と同じで一般質問等をしている。実際に議場で質問するのは5人くらいである。その他の人は3つくらいの分科会にて実際に部長や課長が答弁をする。あらかじめ子どもが質問を考えて提出してもらい、議会の形式を採用している。西東京市でやるのであれば中学生くらいを対象とするべきである。低学年が作るとなると大人が作ったものになりかねない。子ども議会実施の時期は学校の関係もあるので夏休みや終業式の日午後などがふさわしいのではないか。

○G委員：  
墨田区でもやっていて、私はたまたま司会をしていた。葛飾区と同じく本会議をし、委員会形式をとり、通常の議会と同じように行われていた。子どもは自分が思ったことを担当の部長や課長に質問をぶつける。それは保護者も聞いている。

○A委員：  
やるのであれば形骸化しないように、真剣にできるものにしていただきたい。

○座長：  
青少年問題協議会としては子ども議会について賛成でいいか。

○委員一同：  
異議なし。

○座長：  
それでは承認させていただく。

○F委員：

続いて子どもの問題について議論したい。

最近子どもが個人情報保護に敏感になっている。学校から心の相談カードがきているが、悩み相談したことが公開されるとして疑心暗鬼にあっている。個人情報保護に対して子どもと私たちでは意識が違うのではないか。

○座長：

絶対に情報が漏れないということを約束していききたい。嚴重注意をして行うべきだ。

○D委員：

やはり信じてもらうしかない。そのように心がけていく。

○座長：

子どもの間でも情報が流れるので慎重にしていきたい。

○B委員：

青少年育成会とのヒアリングでは時間が足りないこともあったがもっと意見交換をしていきたい。また青少年に関わる団体とも意見交換をして横のつながりを深めていきたい。

このようなことは西東京市立小学校・中学校PTA及び教師と保護者の会ではどのようになっているか。

○D委員：

西東京市立小学校・中学校PTA及び教師と保護者の会でも声をかけていけばヒアリングができるかと思う。連携をしていきたいと思う。

○座長：

議題は以上である。この後は情報交換とさせていただきたい。

情報交換

次回 平成22年4月26日（月曜日）午後2時より